

仮定と結論 - 1

『仮定と結論』

あることがらが、「○○○ならば、 である」という形で表されるとき、
「○○○」の部分を『仮定』，「 」の部分を『結論』という。
つまり、始めに与えられている条件が『仮定』で、最終的に言いたいことが『結論』ということになる。

「次の文の『仮定』部分に——線を，『結論』部分に ~~~ 線を引きなさい。」

「三角形ABCと三角形DEFにおいて、辺ABと辺DE、辺BCと辺EF、角Bと角Eがそれぞれ等しい
とき、三角形ABCと三角形DEFは合同である。」

35
04

1，次の文の『仮定』部分に——線を，『結論』部分に ~~~ 線を引きなさい。

点A，Bを通過して線分ABに垂直に引いた2直線と、線分ABの中点Mを通る直線との交点をそれぞれC，
Dとすると、線分CMと線分DMの長さは等しくなる。

三角形ABCの辺ACの中点をMとし、Mを通過して辺AB，BCに平行に引いた直線が辺BC，ABと交
わる点をそれぞれL，Nとすると、三角形ANMと三角形MLCは合同である。